秋田魁新報　2025年11月04日付　県央

ブナ林 生活と密接

仁賀保高 特別授業 植樹の重要性学ぶ

鳥海山のブナ林について学んだ仁賀保高校の特別授業

にかほ市の仁賀保高校（木村実樹夫校長）で、鳥海山麓のブナ林について学ぶ特別授業が行われた。「鳥海山にブナを植える会」（須田和夫会長）の会員がブナ林の役割などについて講演。同校の1年生26人が耳を傾けた。

10月30日に行われた特別授業では、ブナは1年間に1本当たり約8㌧の水を根元に蓄えることや、ブナの落ち葉の腐葉土層から流れるミネラル豊富な伏流水が、岩ガキなどの自然の恵みを育んでいることが紹介された。しかし、鳥海山では昭和中期ごろにブナを伐採し、木材となるスギへの植え替えが進められたため、ブナ林が大幅に縮小したことも語られた。

同会総務部長の茂野正信さん(71)は地球温暖化の抑制や生態系保全に有効な手段の一つが植樹であると説明。会が植えた苗木が30年間で約4万8千本に達したことに触れ、「一人一人の力は微力でも無力ではない。皆さんも自分にできることを考えてみてほしい」と語った。

講演を聞いた相馬將胤さんは「鳥海山やブナ林は私たちの生活と密接に関わっていることが分かった。今日の話を周囲とも共有したい」、佐々木蒼真さんは「鳥海山やブナ林による恵みが途切れないようにできることを考えていきたい」と話した。

仁賀保高校では2000年から同会とともに鳥海山での植樹を行ってきた。今年は市内でクマの出没が相次いでいることを受けて植樹を取りやめるなど、特別授業の内容を変更した。

（大谷好恵）

ⓒ秋田魁新報社